

第32巻増刊号正誤表

総会号（北本治氏シンポジウム）中誤植がございましたので、次のように訂正いたします。

P.54, 右段, 4行目 “図表11” を “図表10” に訂正。







“, “, 7行目 “図表12” を “図表11” に訂正。

P.56, 右図の表題として “図表16 2者に耐性の菌に対する併用効果 (in vitro) (INH・PASの場合)” を加える。

P.57, 左図の表題として “図表17 SM・PAS 2者に耐性を有する菌株に対する併用効果 (youmans 培地)” を加える。

P.64の左段 結語 の上の6) および7) の文章は右段5) のあとに続く

P.56, 右段1行目より12行目までを、次のように訂正。

5 γ で阻止されるのであるから、SM5~10 γ 耐性菌はPASに対してはせいぜい5 γ までの耐性菌である筈で図中の2重耐性菌は存在しなかつた場合と推定され、またSM10 γ を加えるとPAS1 γ で阻止されたのであるから、SM10 γ , PAS1および5 γ の2重耐性菌すなわち図中の2重耐性菌は存在しなかつたものと推定される。すなわち、この菌株中には印以外の組合せに相当する菌のみが存在していた場合と考えることができる。もしもポピュレーション中にまたは印の如き菌が存在する場合には、同じくSM10 γ , PAS100 γ の2者耐性であつても、2剤を組合せた場合上述の如き阻止限界の下降がみられないものと考えられる。